



# 滋慶大学院新聞

発行所

学校法人 大阪滋慶学園  
滋慶医療科学大学院大学  
大阪市淀川区宮原1-2-8  
TEL.06-6150-1336  
<https://www.ghsj.ac.jp>

第9号

発行責任者

発行日

橋本 勝信  
2019年(令和元年)10月15日

## チーム医療とプロフェッショナリズム



大阪大学医学部附属病院 病院教授  
手術部・材料部・臨床工学部・サプライセンター

**高階 雅紀氏**

昨今、医療の世界においても働き方改革やタスクシフトについて議論がなされる中で、チーム医療とプロフェッショナリズムについて思索にふけることがある。一般社会においてチームの在り方が多様である以上に、医療のチームも多彩である。24時間の継続的なケアを提供するための医療チームは、比較的等品質なメンバーがバトンリレー的に活躍するチームである。医師の労働時間の短縮には主治医制からチーム制への移行が必須であるが、患者や家族からは従来の主治医制への愛着も根強い。一方、医療安全の面からは、多重確認のための重複したチーム構成を求められることがある。労働生産性からいえば一般的には非効率的であるが、ひとたびエラーが発生した場合の損失を考慮すると一概に非生産性と決めつけることはできない。リスクとベネフィットを適切に分析することが求められる。さて、私が日頃携わる手

術医療においては、各々プロフェッショナルな多職種によってチームが構成される上に、大学病院のような組織であれば、チームの構成員は手術ケース毎に再構築される。医療安全の面からは、この種のチームは各職種の教育課程や経験体験の違いに由来する視点の違いが、より幅広い安全を生み出すと考えられている。

このように医療の世界においては多様なチーム形態が存在するが、これらに共通する理想のチームの要因とはいかなるものであろうか。たとえば、優秀なチームは頻繁にコミュニケーションを維持しているという意見がある。では、術者と器械だし看護師のいわゆる「阿吽の呼吸」は否定されるのであろうか。確かに阿吽の呼吸には言葉としてのコミュニケーションは存在しないが、そこには手術術式というチームにとって共通のルールが存在し、術者も看護師も麻酔科医師もその他の職種も、そのルールに従っている限り無駄な言語コミュニケーションは不必要なわけである。計画された術式に沿って、リズム正しく手術を進行させるプロフェッショナルな術者によって、医療チームの統制がとれていると言える。

最適なチームというものは、共通の目的を有して集散し、プロフェッショナルな業務分担、綿密な計画、ルールに基づく最小限のコミュニケーションによって成り立つものである。そういう意味では、私失敗しないからと嘯く外科医やプロフェッショナルな多職種メンバーと共に、私も麻醉は失敗しないよと、オーシャンズ(最近なら11よりも8かな)な手術チームで事ができれば楽しいだろうとうのは妄想である。

## 2019年度(平成31年)入学式

2019年(平成31年)4月7日(日)、滋慶医療科学大学院大学では、「2019年度入学式」を行いました。今年度の入学生は、看護師をはじめ臨床工学技士、臨床検査技師など、多職種で、いずれも仕事や家庭を持ちながら向学心に燃える20名が入学しました。木内淳子学長は、「学問とはなにかを問いかけて常に『なぜか』を問い合わせてほしい、そして、柔軟な姿勢で多様な価値観を認めようという態度を学習すること」を述べられました。



次いで浮舟邦彦理事長は、「入学生の皆さん、それぞれご経験をもっているわけですが、皆さんの知のネットワーク、人的ネットワークは大きな財産となります。仲間との連携をしっかりとて研究を進めて頂きたいと思います。この領域は学際的なところにあり、自分の専門分野をこえた中でリーダーシップをとれるリスクマネジメントのスペシャリストとして活躍されることを目指し、研鑽に励んでいただくことを祈念いたします」とエールを贈られました。

次いで、大阪大学大学院医学系研究科 研究科長・医学部長 森井英一様は来賓の祝辞で、「医療安全の大切さは良くわかっているものの、中心課題にすることは難しいのが現実でした。もちろん医療現場では安全に気をつかいながら仕事をしますが、医療安全ということを中心において人材育成をしようというのが本学の目的です。研究は課題を見つけ出し、いかに解決していくか考えること、誰もやらなかったことを考えることです。皆さんにしかできない新しい研究分野にチャレンジしてください」と激励の言葉をいただきました。

最後に、入学生の代表が、「専門性豊かな先生方からご教授いただき、多職種の経験豊富な学友とともに、新たな学びと経験を積み重ね、実践者として、リーダーとして、医療の質と安全の向上に貢献できるよう日々、精進して参ります。学業・仕事・プライベートを両立させながら自らの課題と真摯に向かい、研究能力を養うべく日々研鑽することを誓います」と力を込めて宣誓しました。

## 医療安全実践教育研究会

昨今、医療機器が現代医療にとってなくてはならない存在となってきたことは言うまでもありませんが、医療機器の安全使用ならびに安全管理が十分に行われているかと言うと、必ずしもそうではない現実があるかと思います。特に安全管理が必要なのは、各種の生命維持装置と患者モニタ装置で、これらの装置の安全管理は、主に臨床工学技士が担っているわけですが、実際に機器を操作するのは医師であったり看護師であったりする場合が少なくありません。

医療スタッフにとって、患者を支え見守ることは最大の使命ですが、その一翼を担う医療機器の安全管理を徹底することも大きな使命かと思います。そのことを皆様と共に考え情報共有できればと思い、「患者を支え見守る医療機器の安全管理～病院から在宅まで～」を今回の学術集会のテーマとしました。関連分野の多くの方々にご参加いただき、それぞれの現場での実践につながる学術集会となることを期待しております。



## 2018年度(平成30年)修士学位論文公聴会

2019年(平成31年)2月9日(土)・10(日)の両日に本学視聴覚教室で平成30年度修士学位論文公聴会が開催され、16名の院生がそれぞれの研究課題について発表しました。

公聴会は、発表20分・質疑応答10分の時間配分で進行し、2年間の研究成果について、それぞれがスライドを駆使し発表を行いました。

質疑応答では、主査・副査から質問と意見が出されました。堂々と答えて無事終了することができました。これを機にさらなる成長を期待したいと思います。

今後は、研究のデータを提供いただいた医療機関等へも結果を報告していく予定です。修士論文の作成にご支援・ご協力をいただいた関係者の皆様に改めて御礼を申し上げます。



### 修士学位論文テーマ一覧

- ◎新卒訪問看護師が入職時に期待される看護実践能力
- ～訪問看護ステーションの管理者とスタッフおよび在宅看護担当教員の立場から～
- ◎健康成人に対する鍼刺による心肺機能の変化と安全性の検討
- ◎看護師学校養成所二年課程(通信制)における技術教育について
- ◎地域医療構想における急性期病院の受療動向に関する研究—大腿骨近位部骨折術後リハビリテーションをモデルとして—
- ◎誤嚥による事故を防ぐための対応策の検討—裁判例からの分析
- ◎自己の判断が患者および患者以外の対象に及ぼす影響に関する看護師の認識
- ◎言語聴覚士養成校における嚥下スクリーニング検査映像の教育効果の検討
- ◎小児専門病院における医師と看護師の協働の態度に関連する個人要因
- ◎医療業界の新たなビジネスモデルについての研究—メカカルGPOを事例にして—
- ◎看護師学校養成所3年課程における医療安全教育の調査研究—WHO患者安全カリキュラムガイドの視点から—
- ◎高齢者の多剤併用(ポリファーマシー)に対する薬剤総合評価の効果の検討
- ◎医療現場でのコミュニケーションにおける表情の役割：協働のきっかけとなる認知・判断への影響
- ◎認知症のある高齢者の行動・心理症状に対して介護職員が用いる方便的欺瞞に関する研究
- ◎看護師学校養成所(3年過程)の学生に関する教員の捉え方：一般学生と社会人学生との比較
- ◎在宅高齢者における栄養マネジメントプログラムの評価—家族参加型による介入の試み—
- ◎在宅持続陽圧呼吸療法(CPAP)患者に対し臨床工学技士による遠隔モニタリングシステムを利用した介入のアドヒアランス向上に及ぼす効果



## 2019(平成31年)3月16日(土)、滋慶医療科学大学院大学の「2018年度(平成30年)学位記授与式」が挙行され、16名に学位記が授与されました。

式典では、木内学長から式辞をいただき、その後、修了生は学位記を授与されました。浮舟理事長から祝辞が述べられ、さらにご来賓を代表として大阪大学医学系研究科前研究科長・医学部長 金田安史様並びに大阪大学医学部付属病院病院長 木村正様、そして、海外提携校であるミネソタ大学ダルス校 コミュニケーション科学・障害学部 学部長 マーク・ミズコ博士からご祝辞を頂戴しました。



最後に、修了生の代表は、「学ぶ楽しさや知っていると思っていたことの意味の深さ、根拠を知る尊さ、論理的に物事を考える重要ななどを学びました。なによりも多職種の学生との交流はとても新鮮でかけがえのない時間でした。この大学院で学ぶ機会を得たことを誇りに思います」と述べ、指導教官や職員の皆さん、職場や家族にそれぞれ感謝を伝えました。すばらしい頑張りに対して、参列者から大きな拍手を浴びていました。修了生の皆様のご後のご活躍をお祈りいたします。

## 医療機器安全管理研究会セミナーを開催しました。

2019年(令和元年)7月27日(土)に滋慶医療科学大学院大学 医療機器安全管理研究会主催のセミナー「単回使用医療機器再製造とRFIDの“今”」を開催しました。このセミナーは、医療機器全般にわたる安全性、有効性、信頼性、妥当性そして経済性について研究を行い、実践的な安全管理の推奨方法を提言する組織として、滋慶医療科学大学院大学が発足させた「医療機器安全管理研究会」が企画されたもので、医療機器関連会社や医療機関から約50名の方が参加されました。

今回のセミナーでは、単回使用医療機器の「再製造」に関する各論と現状についてパネルディスカッションIを行いました。

大阪大学医学部付属病院病院教授 高階雅紀先生が座長を務め、日本ストライカー株式会社 伊藤由美先生から「単回使用医療機器再製造の進捗」を、国立医薬品食品衛生研究所 宮島敦子先生から「再製造洗浄ガイドライン」、株式会社ホギメディカル 佐々木勝雄先生から「使用済みSUD収集上の課題」を講演いただき、議論を行いました。



続いて、パネルディスカッションIIでは、「医療現場でのRFID：基礎と実際」をテーマにKRDコーポレーション株式会社 澤勉先生から「RFIDの基礎」、小西医療器株式会社 島田正司先生から「SPD受託施設のRFID活用事例」について講演いただき、最後にディスカッションを行い、質問・議論が続きました。

次年度も医療機器安全管理研究会セミナーを開催予定にしていますので、皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。



## ある在校生の一日

医療法人 沖縄徳洲会 湘南鎌倉総合病院  
医療安全管理室 看護師 峯尾 千恵さん(9期生)



私は、神奈川県の鎌倉にある病院の医療安全管理室で専従の看護師として働いています。医療安全管理室の専従となる前は、病棟・手術室・集中治療室で勤務させていただいていました。神奈川県にある病院に勤めている私が、何故新幹線での通学が必要となる大阪の大学院に通うのか疑問に思われる方も多いと思います。

医療安全管理室には、院内の様々な情報が集約され、データー化されます。それらの事柄に対し、情報収集・原因分析・対策検討・対策の評価を行うことが必要となります。また、職員に対し、安全文化の醸成のための教育を行なうことも少なくありません。そのような中、事例の分析や評価を行う際の方法論や職員への教育に対する指導方法について知識が乏しいと感じていました。そのため、物事を論理的に且つ客観的に分析し、第三者に伝達できるようになりたいと考えていました。そのような時、当時の看護部長に進学に興味がないかという話をいただきました。看護部長には、進学に対し興味がある旨を伝え、インターネットで検索を始めました。医療安全管理室に勤務しており、病院にとって医療の安全と質の向上は非常に重要なと考えていたので、この分野の大学院はないかと検索しました。「医療安全」「大学院」で検索するとこちらの滋慶医科大学が一番目に飛び込んできました。場所が大阪で遠いと感じましたが、悩んでいても仕方がないと思いオープンキャンパスに



参加することにしました。実際に、新幹線で大学院に訪問したところ、新大阪駅の目の前だったので、それほど苦ではなく通学できるのではないかと考えました。しかしながら、実際に通学するとなると、宿泊も必要となり仕事との両立について本当にできるのかという問題を次に考えました。そのような時期に私は、医療の質・安全学会に参加する機会がありました。その際に、大学院の先生が企画したシンポジウムを拝聴することが出来ました。その企画内の発表を聞かせていただき、ぜひこの大学院で学びたいという思いが強くなりました。そのため、病院に戻った後、病院長・看護部長に相談したところ快く賛成してくれました。そして、入学前に委員会の開催日の変更・勤務形態の調整(早番・遅番・休日の日勤等)を行い、通学が可能になりました。

実際に4月から通学していますが、通学時間は特別大変な要因とは感じていません。社会に出てから自分の勉強のために多くに時間を費やすことはこれまで経験したことなく、充実した日々を過ごすことが出来ています。この環境は、大学院に通いたいという私の思いを

理解してくれた職場の多くの方の協力があってこそだと思います。これから、研究も本格的に始まり、仕事との両立等で悩むこともあるかもしれません。しかし、通学にあたり協力していただいている皆様への感謝を忘れず、医療安全の向上のために前進していくたいと思います。

## 修了生の活躍

社会福祉法人青野ヶ原福祉会 特別養護老人ホーム青都荘  
機能訓練指導員 作業療法士 亀井 章さん(6期生)



副施設長をしていた当時に、施設長より、リハビリテーションを学び事業を立ち上げてきた経験をここで活かすために、考え方や行動と共にできる人材を育成し、同じ目標に向かうためのチーム構成が重要であること、また今後はどの部署に対しても管理して運営につなげる能力、つまりマネジメントが欠かせない。そのためこうした多職種協働組織では何事にも安全の視点に立つ考え方が必要であり、「学び続けなさい。」と頂いてきました。つまりそれは施設運営において実践されるサービスと利用者との間にある安全の担保であり、そのための具体的な取り組みの検証と実践の繰り返しは医療と同じく介護老人福祉施設でも重要であることに変わりはありませんが、この業界ではその質に関し最も問われている状況にあることを理解していましたし、当施設でもこれまでの体質からの変革がなされようという時期でもあったため、職場管理者方の応援と、交流のある関係専門学校講師方の多数のご支持、そして恩師であり今となっては先輩となった3期生岸村厚志先生のご活躍を聞き入学を決意しました。忘れてはいけないのは家族の温かな理解でした。皆で悩みましたが、これから当施設や業界でも必要となってくる豊富な知識、また多方面で活躍されている講師陣をはじめ同じ意識をもった学友の構築、また日々学び続けられる人格形成への期待など、これらは今後必ず身となり活躍できることを約束し、最後に背中を



押してくれた家族には感謝しかありません。入学後からは部署ごとのサービス提供における安全管理の客観的確認のため、機能訓練指導員の視点から事故、身体拘束虐待防止、救急法に関する委員長を兼務し、当施設に最も必要であった、人の動作やそれに応じた介助方法と環境設定、ノンテクニカルスキルの向上、ヒューマンエラーを防止するため互いが補い合えるチーム単位のコミュニケーションについて介入し、学んだ教育を実践してきました。施設内事故のうち転倒事故は介入後、前年比から約半減し維持していることから、これらが活かされたことは言うまでもありません。

在学中は高齢者の排便と栄養状態の関連性について、整腸作用のある食品を使用した群との差を評価する介入研究を実施しました。医療ではなく施設という生活の場は、排泄という結果だけを考えるのではなく、体や心にも負担がないように健康安全を管理する必要があります。それはまさに、安全学の視点に立ったサービスの質の評価と向上の一歩と言えるところです。卒後も研究生として在籍し、

担当教授をはじめ大学院大学の皆様方には大変お世話になっています。また現在は阪大の栄養に関する研究会や薬学研究の先生方との交流、その他企業との情報共有の機会も増えるなど、修士課程で培った探究心はどんどん加速し、忙しさで充実していますよ。

## 本学研究生 谷浩子さん、鷲尾潤子さんが世界看護学会にて修士論文の一部を発表 シンガポールにて開催

2019年6月27日から7月1日にシンガポールにおいて国際看護師協会(International Council of Nurses)の国際学会が開催されました。本学から5期生の谷浩子さんと7期生の鷲尾潤子さん(両氏とも現研究生)が修士論文の一部をポスター発表しました。

今回の学会は、「Beyond Healthcare to Health(保健医療ケアを越えて健康に)」をテーマに開催され、140か国から約5400名の参加者が集まり、広義での健康に関する課題について議論が交わされました。

本学からは、谷浩子さんが「The degree of symptoms and current state of care services for elderly people with dementia in a community」、鷲尾潤子さんが「Effects of an interventional program for nutrition management on community-dwelling elderly people」という内容について発表しました。



東辻保則さん(7期生)が2年連続(2018年度・2019年度)公益財団法人大阪腎臓バンクから研究助成を受けることになりました。



滋慶医科大学の院生・東辻保則さん(医療法人社団石鍬会田辺記念病院・臨床工学技士)を中心とする研究チームは、公益財団法人大阪腎臓バンクから2018年度・2019年度の2年連続腎疾患研究助成を受けることになりました。2018年度の研究テーマは「血液透析療法の準備段階におけるエラー発生の要因分析」、2019年度の研究テーマは、「多職種協働で取り組む透析準備確認の質的向上を目指した研究:行動分析学的介入の試み」であり、本学の飛田伊都子教授と加納隆教授との共同研究によるもの。

## 学費の負担が軽減! 厚生労働省「専門実践教育訓練給付金制度」の指定講座となりました

専門実践教育訓練給付金制度は、働く人の主体的で中長期的なキャリア形成を支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とした雇用保険の給付制度で、2018年4月以降の本学入学者のうち所定の要件を満たす場合に給付金が支給されます。

本学の入学前に手続きが必要ですので、住居所のハローワークにご相談ください。

### 【給付額】

1年次	2年次	修了後	給付金合計
40万円	+ 40万円	+ 32万円	112万円

順調に単位を取得し2年間で修了した場合に限ります。

## オープンキャンパスのご案内

オープンキャンパスでは、本学の特徴や背景についての説明、カリキュラム、入試制度の案内ほか、講義の体験ができる模擬授業も実施しています。また、修了生によるメッセージもご覧いただけます。入学後の履修科目の選択方法や仕事との両立の仕方など、また、研究テーマについて個別に相談ができます。入学を検討されている方は是非オープンキャンパスにご参加ください。個別相談会・授業見学も随時行っております。

お申し込みは本学ホームページ、またはメール、電話でお願いします。

## 編集後記

今年も豪雨災害に襲われました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。年を追うごとに、その到来に不安を覚えるようになりました。備えあれば憂いなし、想定外が想定外ではなくなる場合への備えを早急にする必要があります。

さて、本新聞は、著名な「医療安全」に関わる方から寄稿頂くほか、学内行事、教職員の教育・研究成果及び学生・卒業生の活動の記録をお届けしております。ぜひ、紙面への情報提供や、ご意見をお寄せください。

### 大学事務室から

事務室への連絡はメールアドレス info@ghsj.ac.jp または  
電話06-6150-1336へお願いいたします。(火曜~金曜10時~21時、土曜10時~19時、日祝・月曜休)